



道程

西東京市立ひばりが丘中学校

第3学年

第27号

令和7年10月24日発行



10月29日に最優秀賞と優秀賞のクラスが谷戸小学校で合唱を披露します。ひばり中代表として、憧れの中学生の姿を見せられるといいですね。保護者の方の見学はできませんが、帰宅したらご家庭で様子を聞いてみてください。今回は最優秀賞クラスのA組の作文を紹介します。



「虹」

3年A組

舞台から「虹」が架かっていた。「群青」の絆を感じた。最後に最優秀賞を飾れたことが嬉しかった。期待できるスタートだったことを覚えている。まず、声がよく出る。よく意見が出て、決めた練習は根気強く取り組んだ。だから上達が速く、成果を実感して頑張れたと思う。粗削りではあったが、可能性を多く感じていた。

そんなA組の最大のよさは、「みんな」であることだと思っている。見る方向が同じ。男性パートは、改善策が次々と出るところで、女性パートは、歌うことを楽しんでいる（ように見える）ところ。前向きで、やる気があって、頑張れる雰囲気だった。

みんなに「ありがとう」を言いたいと思っている。文化行事委員の人はクラスを中心。最初から最後まで、全力で引っ張ってくれた。うまく言葉にできないが、姿がかっこよかった。指揮者、伴奏者の、うまさに圧倒されつつ、気持ちよく歌わせてもらった。ずっと協力し、助け続けてもらったパートのメンバーたちのおかげで、自分も成長できたと思っている。歌うたびによくなる合唱で、いつも頑張ろうという気持ちにしてくれたクラスみんな。励まし、見守ってくれた先生。全員の成果だと実感している。本当にありがとう。

合唱祭が終わり、“～してもらった”という言葉とともに感謝が溢れてきた。明日からまた一日一日を大切に過ごしたい。これからも「虹」はずっと心に残ると思う。

「落ちた先で」

3年A組

私は正直、合唱祭に行きたくなかった。でも3年A組でよかったと心から思った。

毎年合唱祭はとても楽しみだった。だからこそ、2年生から練習していた指揮者のオーディションに参加した。結果は落選。次こそはと思い、憧れの先輩が歌っていた「虹」のソリの練習をした。そして臨んだオーディション。結果は今回も落選。どちらもたくさん練習したのに落ちてしまい、悔しい気持ちや自分に対しての怒りの気持ちがぐちゃぐちゃになって、涙が出てきてしまったりした。オーディションが終わった次の日は、笑って過ごすことができたが、音楽の授業がある日は、足が動かず学校を休んでしまったこともあった。合唱練習が始まっても、思い出すと悲しくなったが、少しずつ気持ちの整理がついていった。

あっという間に時は過ぎていき、合唱祭当日になり、正直不安でいっぱいだったけれど、今自分にできる全力を尽くし、結果発表を待った。

「3年生の部、最優秀賞は・・・」ほんの数秒がとても長く感じた。そして流れた曲は、私たちの自由曲「虹」だった。この瞬間、私の努力は無駄じゃなかったんだと、すごく報われたような気がした。

この合唱祭を通し、私はたとえ何かにつまずいたとしても、その努力は必ず報われることを、身をもって体験した。本当に3年A組でよかったと思っている。

「忘れられない思い出」

3年A組

結果発表で「虹」の前奏が流れた時、嬉しさで胸がいっぱいになった。たぶん、この瞬間はいつになっても忘れられないと思う。

夏休み前からコツコツ準備してきた合唱祭。放課後練習が始まってからは、少しずつ歌の完成度が上がっていくのが楽しかった。どうやって練習を進めていけばよいか悩むこともあったけれど、パートリーダーが練習法の提案をしてくれたり、練習の時に話し始めたら、声をかけあってすぐに耳を傾けてくれるクラスのみんなにたくさん助けられた。

当日の朝、練習で課題曲と自由曲を歌ったら、先生が感動して泣いてしまった。泣くのはまだはやいですよ、と思いつつ、自分たちの合唱で感動させることができたのが何よりも嬉しかった。お弁当を食べ終わった後、いよいよ本番が来ると思うと緊張してきた。クラスで円陣を組んで、気合を入れて本番を迎えると、本番は緊張の何倍も楽しく、自由曲の最後は終わってしまうのがすごく寂しく感じた。

中学校生活、最後の合唱祭。最優秀賞をとれたことは、今でも信じられないくらい嬉しかったけれど、A組のみんなで最高の合唱を作れたことが一番嬉しかった。大変なこともあったけれど、すごく楽しい合唱祭だった。卒業まであと半年。もう残り少ないけれど、A組みんな最後まで楽しく過ごしていきたい。

